

教えて 学んで 楽しもう

# 学びのトレジャー

Vol.3

2024年1月5日

## やり取りと音読とAI

北海道札幌市立あいの里東中学校

楠本 正義 先生

3人で行う会話のやり取りのテストや指導に、ここ10年ほどはまっている。トピックを決めて会話を続けたり、意思決定を含む話し合いをしたりする様子を指導し、評価するものだ。3人の気楽さや奇想天外さや達成感とともに、リアルな思いや考えを引き出してくれる。感想や共感だけではなく、フォローアップ質問ができる生徒などが育っていくのも楽しい。

中学1年生からその下地を作ると考えると、たとえば、場面はレストランで、目的は魅力的なメニューから料理を選ぶこととし、基本的な食品名と形容詞を用いて、それぞれの料理の良さを伝えつつ、どれを選ぶのかを伝え合うことが求められる。シンプルに「3人の推しの良さが伝わる会話」を目指すのもよい。その他、友人と一緒に宿題を週末にする計画や、学級の問題についての討論、夢の学校や旅行的行事のルールや持ち物選び、留学してしまうクラスメイトに送るプレゼント選び、災害用のバッグに入れるべきアイテム選びなどなどトピックには事欠かない。



やり取りを行う下支えの1つとして音読が挙げられる。音読は授業の最初に前回の定着具合をみたり、リテリングやスキットなどの活動に進むための形成的評価としてみたりしている。授業では、音読のAI判定を始めた。



クラウドサービスによるもので、生徒のアクセス状況なども見える。最初は教室内で、生徒と一緒にアプリをいじって、AI判定をしてもらう。

「先生、全然、流暢じゃないみたいでショックです。」と英語が読める生徒から相談があった。「そんなわけないだろう。先生がお手本を見せよう。」と私自身が音読をして判定をしてもらった。自画自賛だが最高の出来だった。しかし、AIの判定は、63%の流暢さ。愕然としたが、原因はデバイスのマイクの音量が小さくなっており、聞き取れない設定になっていたことだった。経験しておいてよかった事例である。

**開隆堂**